

# 謹賀新年

平成20年月1号

夢をつなぐ 心をつなぐ 世界をむすぶ  
きぬがわ せいさ こうぎょう



衣川製鎖工業株式会社

衣川 寛介



## 夢 通信

### 『鍛冶千軒』

1 1月号に『草戸千軒遺跡』のことを書きましたが兵庫県には『鍛冶千軒』と言う地名が残っています。そこは姫路の西約40km、千種川の中流、赤穂郡上郡町（かみごおり）。

〇〇千軒と呼ばれる地名は中世に流行した命名法だったのでしょう。まだ大きな集落の出来ていなかった時代、川湊（かわみなと）や街道の宿場町で当時の繁華街が、その地名を付けて『草戸千軒』などと名付けられたのでしょう。上郡には『横山千軒』『千軒家城（苔縄＝こけなわ）』と『鍛冶千軒』があります。千軒町が三つもあり非常に大きな町だったのでしょう。普通はその土地の名に千軒と付けましたが、ここは『鍛冶千軒』、職業名です。

この佐用荘は九条家の（京都の公家）荘園で（1221～1251年 幕府直轄 1333年～）今の佐用町・千種町・山崎町と上郡町を含む大きなものでした。その上郡町赤松が、赤松則村（円心＝1277～1350）の出自の地で、円心は政治の混乱した鎌倉時代末期、突如台頭し足利幕府の重職についた武将です。

私は以前から製鉄と物流を掌握していたのだらうと想像していました。『鍛冶千軒』この地名に驚きました。推測どうり？古代からの製鉄地、千種は赤松氏の一族宇野氏が治めていました。その鉄は千種川を下り、上郡に運ばれていました。佐用荘赤松の鍛冶屋たちが製錬し、武器や農具を作っていたに違いありません。それらの製品が山陽道を経て京都・大坂へ、因幡道を経て山陰へ、美作道を経て、美作・新見へ、又、刀匠たちは旭日道（あさひみち）を使って、備前からここへ足を運んだのです。こんな推測を確定する文書を見つけました。時代は少し下りますが、赤松氏と鉄・刀鍛冶との関係を示しています。



赤松円心

嘉吉元年（1441）赤松満祐が六代将軍足利義教を暗殺するため、長船康光に播磨で三百腰作刀させる（『嘉吉記』）。

播磨のどこかは記していないが作刀させたと思える。その後一時赤松氏は没落したが政則の代に復興。政則は宗光を師として自らも作刀したことで知られる。長享二年（1488）九代将軍足利義尚が近江の六角高頼を討伐する時「一昨日長船勝光宗光一党備則より上洛おおよそ六十員千草鉄廿駄人数百人ばかり」（『蔭涼軒日録』）とあるように、政則の家臣浦上氏に千草鉄二十駄（約六百貫）を運ばせ京都西で陣中打ちさせている。（中略）

宍粟鉄は赤松氏が掌握、赤松氏－宍粟鉄－備前の刀匠という図式が考えられる。また不時の要求に三石腰（約八百貫）や六百貫すぐに応じている背景には、常時稼働していた専門集団の存在を思わせる。もちろん宍粟鉄は刀剣だけに使用されたわけではない。農具・大工用具・調理用具などに使っている。（後略）

谷間をこがす「まがね」の炎－たたら製鉄史の概観 鳥羽弘毅

バンカル（BanCul）No.16 1995年夏号による 神戸新聞総合出版センター

参考図書 かみごおり紀行（町史百話） 兵庫県上郡町 2007年3月

今年も宜しくお願ひします！！



何でもお気軽にお尋ねください！！

むらの鍛冶屋®